

平安遷都 1100 年に当たる 1895（明治 28）年 3 月、桓武天皇を祭神とする平安神宮が創建された。これを盛大に祝おうと、京都が都であった明治維新から平安時代の風俗の変遷を表現する時代行列が提案され、第 1 回の祭りが同年 10 月 25 日に挙行された。



山中 祥吾氏（平成 19 年）

行列は 20 列で、約 2000 人、70 頭を超える牛馬などで構成され、全長は約 2 キロにも及ぶ。衣装や調度品、祭具は、京都の工匠や染色の識者が考証や研究を重ね、現代によみがえらせた。

創建当時、平安神宮の建物の維持や祭りの挙行に、市民が 1 日 1 厘のさい銭を奉納することが提案され、市民が祭りを運営する平安講社の組織づくりが始まった。平安講社は市内の旧学区単位で構成されている。

そのため、各旧学区は、9



市古 和弘氏（平成 10 年）

年周期で当番となり、柳池自治連合会（藤野英雄会長）は毎回「藤原時代」をお引受する決まりとなっている。

京都御所へ集合する前に、地元を行進する慣しであるが、姉小路界限からは毎回



多数のメンバーが参加させて  
いただいている。

姉小路界限での「藤原公  
卿参朝列」の勇姿をご覧い  
ただきたい。

谷口 親平氏（平成元年）

## 平成 19 年度 柳池学区時代祭奉賛会行列者名簿

| 役割  | 町内所属 | 氏名    |
|-----|------|-------|
| 公卿  | 自治会  | 山中祥吾  |
| 公卿  | 自治会  | 秦 恒造  |
| 供奉長 | 新橋   | 山本彦一郎 |
| 随身  | 鶴亀   | 鎌近知史  |
| 随身  | 姉菊   | 森口裕之  |
| 随身  | 妙満   | 山中淳平  |
| 随身  | 姉菊   | 市古博基  |
| 随身  | 新橋   | 土田 晃  |
| 随身  | 守屋   | 田中元行  |

|     |         |       |
|-----|---------|-------|
| 隨身  | 御所南     | 富田宗弘  |
| 隨身  | 上柳      | 越賀信介  |
|     |         |       |
| 供奉者 | 妙満      | 香山雅旦  |
| 供奉者 | 上本      | 柴田晃一郎 |
| 供奉者 | 下本      | 鈴木富博  |
| 供奉者 | 天性      | 山下 博  |
| 供奉者 | 鶴亀      | 高橋雅夫  |
| 供奉者 | 御幸      | 岩瀬 豪  |
| 供奉者 | 尾張      | 古沢利弘  |
| 供奉者 | 南白      | 森口起久生 |
| 供奉者 | 守屋      | 田中治行  |
| 供奉者 | 御所南     | 小島尚仁  |
| 供奉者 | 南柳      | 三嶋太郎  |
| 供奉者 | 清明      | 森下 俊  |
| 供奉者 | 新橘      | 村井 猛  |
| 供奉者 | 御池      | 今井和昭  |
| 供奉者 | 御池富小路 A | 前川忠弘  |
| 供奉者 | 御池富小路 B | 柳原 徹  |

|      |       |      |
|------|-------|------|
| 供奉者  | 姉菊    | 谷口親平 |
| 供奉者  | 御幸町御池 | 岡本好弘 |
| 供奉者  | 三社    | 加納正博 |
|      |       |      |
| 行列進行 | 自治会   | 山本日大 |
| 行列進行 | 自治会   | 加納真史 |
| 行列進行 | 自治会   | 山岡憲之 |
|      |       |      |
| 童    | 新橋    | 土田瑛大 |
| 童    | 守屋    | 田中智仁 |
| 童    | 鶴亀    | 江坂英明 |
|      |       |      |
| 供奉長  | 銅駝    | 竹中祥二 |